

空き家再生へ 人材発掘・育成

30日に開幕シンポ 地域活性化をビジネスに

■使用目的のない空き家

1	大阪府	22万7000
2	東京都	21万4000
3	兵庫県	17万3000
4	北海道	16万3000
5	千葉県	15万9000
6	愛知県	15万6000
7	神奈川県	15万1000
8	埼玉県	13万6000
9	福岡県	12万6000
10	鹿児島県	12万2000

※総務省の住宅・土地統計調査に基づく。単位は戸
2023年10月時点

総務省の住宅・土地統計調査によると、2023年10月1日時点の全国の空き家数は約900万戸で過去最多。②兵庫県は38万7千戸で、空き家率は全国平均と同じ13・8%だが、「使用目的のない空き家」の数は大阪（22万7千戸）、東京（21万4千戸）に次ぐ17万3千戸で、都道府県別で3番目に多かった。

③空き家が周辺に及ぼす悪影響は倒壊リスクなどによ

る防災性の低下、衛生と景観の悪化など多岐にわたる。

兵庫県は13年度から老朽化した危険な空き家の除却費用として最大約33万円を補助。24年度は前年度比1件減の45件に支援した。また、22年4月には空家活用特区条例を施行。今年1月までに赤穂や西脇など7市町の計8エリアを指定し、建築基準法や都市計画法関連の規制を緩和してきた。

さらなる対策が求められる中、県はリノベーションで再生して収益を得ながら地域課題の解決を図る「エリアマネジメント」に着目。取り組む団体はまだ少ないといい、本年度から担い手となるエリアマネジャーの発掘、育成にかかる。斎藤元彦知事は「空き家の利活

兵庫県は、空き家対策を通じて地域課題の解決につなげる「空き家再生からはじめるエリアマネジメント推進プログラム」を本年度から始める。シンポジウムやプレスクールを

経て年度内に専門知識を学ぶ「実践塾」を開校し人材を養成。来年度には本格的に認定団体の立ち上げ支援に取り組むという。

（井上太郎）

県「エリアマネジメント推進プログラム」

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 傍線部①の意味を、解答欄に合うように本文中から30字以内で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましょう。

～

こと。

2 傍線部②から兵庫県の住宅の数は何戸か計算して書きましょう。

約

万戸

3 傍線部③について、本文に書いてある以外の、悪影響を1つ書きましょう

用が収益のないボランティアではなく、地域活性化のみならず新たなビジネスになるマーケットだと知ってもらい、取り組みを促したい」と話している。

キックオフイベントとして、30日午後2～5時に神戸国際会館（神戸市中央区）でシンポジウムを開催。全国各地の都市再生戦略立案を手がける「ワークヴィジョンズ」（東京）代表の建築家西村浩氏と、たつの市を中心に約80棟の空き家を管理する「緑葉社」（同市）の畑本康介代表が事例を紹介する。定員150人で参加無料。9～10月のプレスクールを経て年度内に「エリアマネジメント実践塾」を開き、26年度に団体の認定と立ち上げ支援を進める。県都市政策課 ☎078・362・4324

NIEワークシートのこたえ（2025年8月20日公開）

◆ワークシート「空き家再生(社会)」 2025.8.20付 朝刊 22面 解答

1 リノベ ～ を図る

2 約 280 万戸

3 不法侵入 害獣、害虫の住みつき 放火
庭の枝のはみだし 悪臭 など